

# 2023年度 第2四半期 決算概要

長瀬産業株式会社 (証券コード:8012)

2023年11月1日

# Delivering next.

「次」って、未来への接続詞。

# 目次

■ 連結損益計算書	P3
■ 所在地別 売上総利益	P4
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P5
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P6
■ セグメント 営業利益概況	P7~P11
■ 主要製造子会社の業績概要	P12
■ 連結貸借対照表	P13
■ 連結キャッシュ・フロー計算書	P14
■ 通期業績見通し	P15~P17
■ 株主還元状況	P18

# 連結損益計算書

- ▶ 売上総利益：主に加工材料における樹脂販売ビジネスの収益性低下により、減益
- ▶ 営業利益：売上総利益の減少に加え、人件費等の一般管理費の増加により、減益
- ▶ 四半期純利益：営業利益の減少に加え、支払利息の増加等により、四半期純利益も減益

(単位:億円)

	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増減額	前年同期比	通期見通し (修正前)	進捗率
<b>売上高</b>	4,555	4,501	△53	99%	9,580	47%
<b>売上総利益</b>	793	788	△4	99%	1,710	46%
<利益率>	17.4%	17.5%	0.1ppt	—	17.8%	—
<b>販売費及び 一般管理費</b>	594	644	49	108%	1,365	—
<b>営業利益</b>	198	144	△54	73%	345	42%
<b>経常利益</b>	202	142	△60	70%	326	44%
<b>親会社株主に帰属 する四半期純利益</b>	155	102	△53	66%	240	43%
US\$レート (期中平均)	@ 134.0	@ 141.1	@ 7.0 円安		@ 135.0	
RMBレート (期中平均)	@ 19.9	@ 19.7	@ 0.2 円高		@ 20.0	

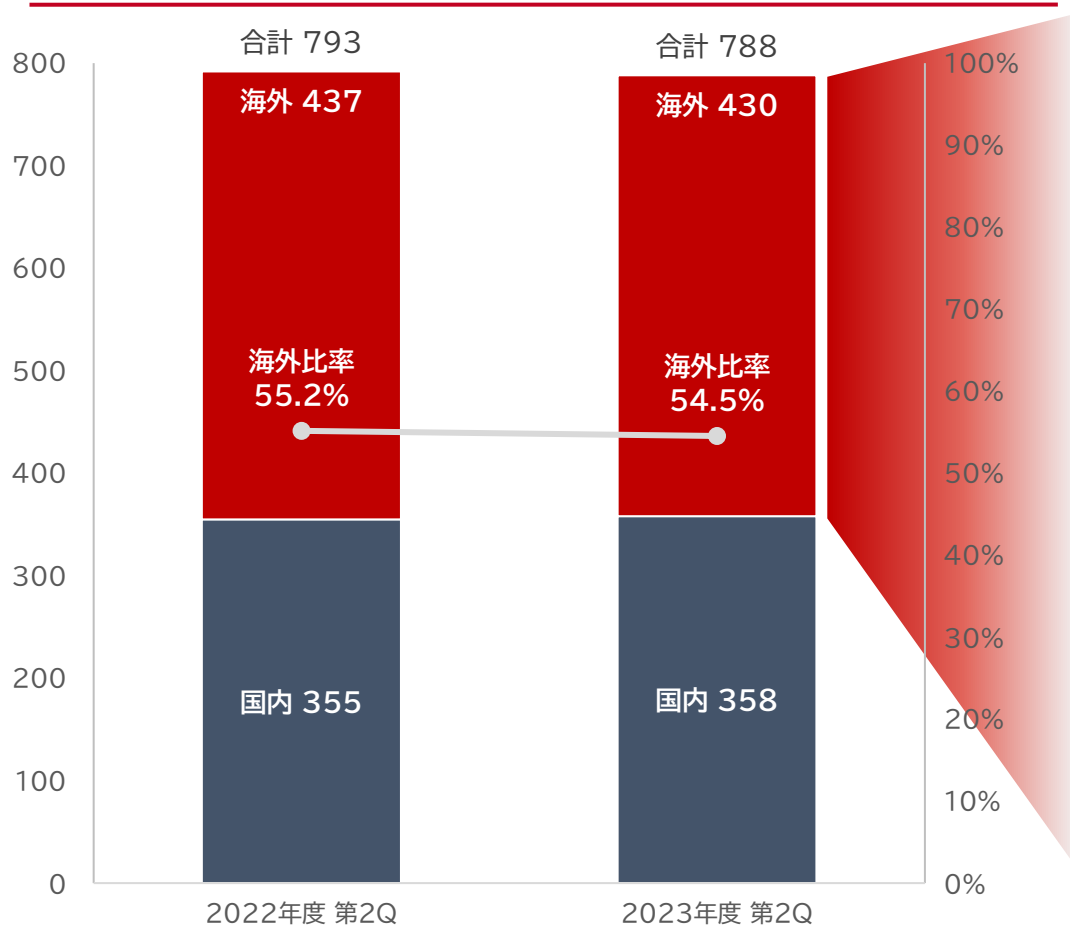
※ 収益認識基準 代理人取引による売上高および売上原価の相殺額 2022年度 第2Q -1,330億円 2023年度 第2Q -1,320億円

※ 為替の影響 【売上総利益】+23億円 【営業利益】+2億円

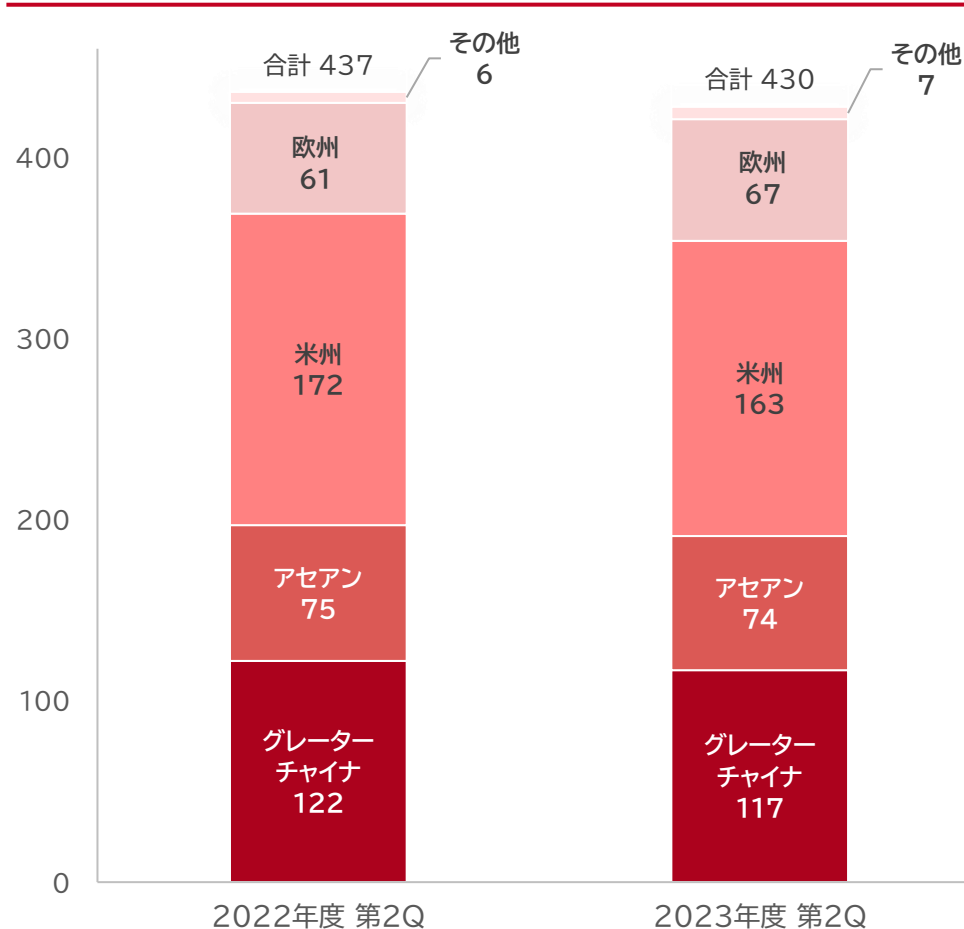
# 所在地別 売上総利益

- ▶ 国内は増益となったが、海外は減益となり、全体として減益
- ▶ 国内は主に化粧品素材や変性エポキシ樹脂関連の販売増加により、増益
- ▶ 海外は円安による利益の増加はあったものの、景気減速の影響を受けて樹脂販売が低調に推移し、減益

## 国内・海外売上総利益（億円）



## 海外売上総利益の地域別内訳（億円）

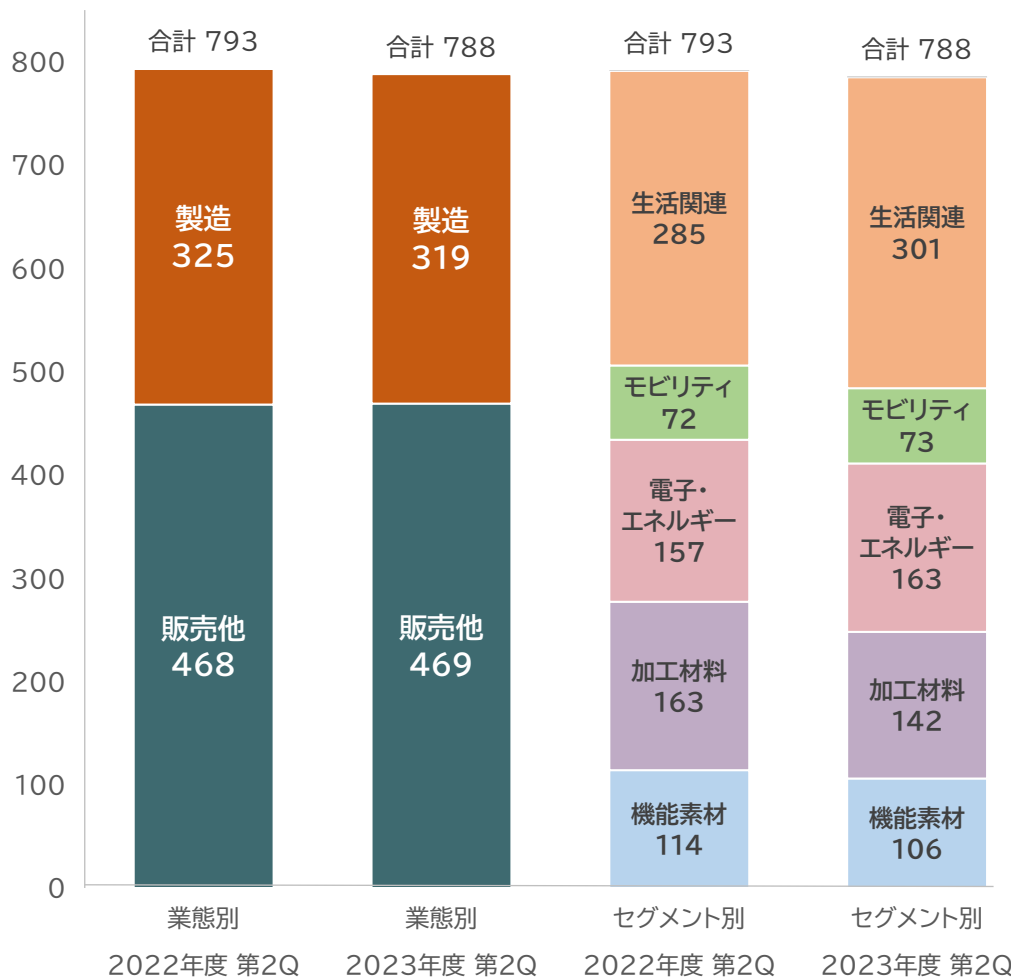


※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含みます。

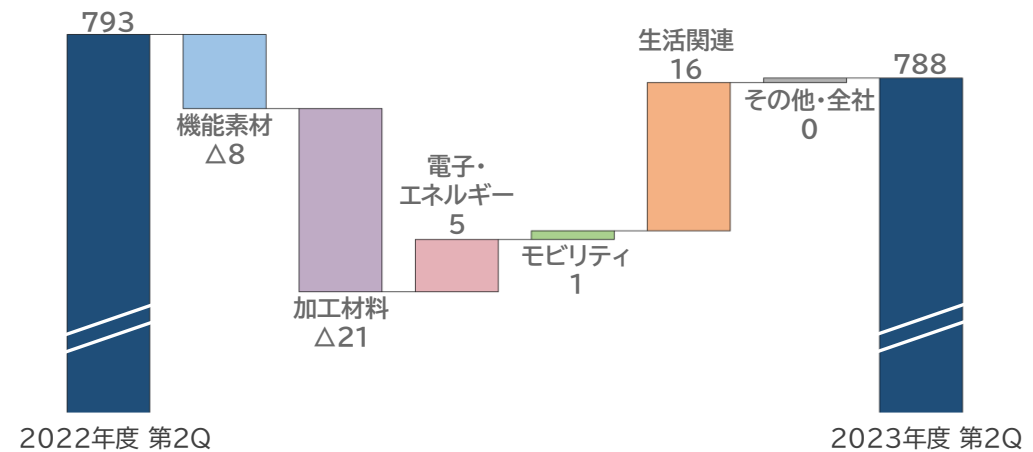
# 業態・セグメント別売上総利益 2期比較

- ▶ 機能素材は塗料原料の販売や半導体関連等の電子業界向けの原料販売が減少
- ▶ 加工材料はOA・ゲーム機器業界等向けの樹脂販売が需要の減少および顧客の在庫調整の影響等により減少
- ▶ 電子・エネルギーは、半導体業界向け材料販売は減少したが、変性エポキシ樹脂関連の半導体・電子部品関連の販売が増加し、全体として増加
- ▶ 生活関連は香粧品素材の販売や医薬品原料の販売が増加

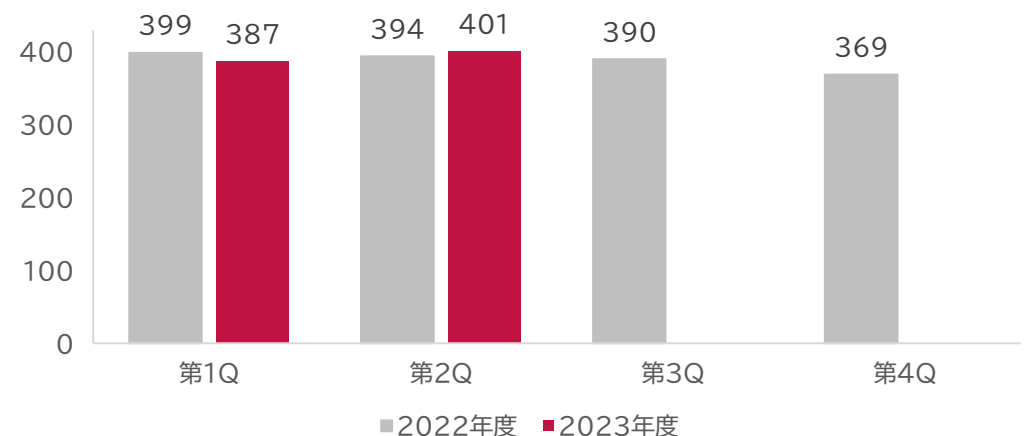
## 業態・セグメント別 売上総利益 (億円)



## セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



## 売上総利益 四半期推移 (億円)

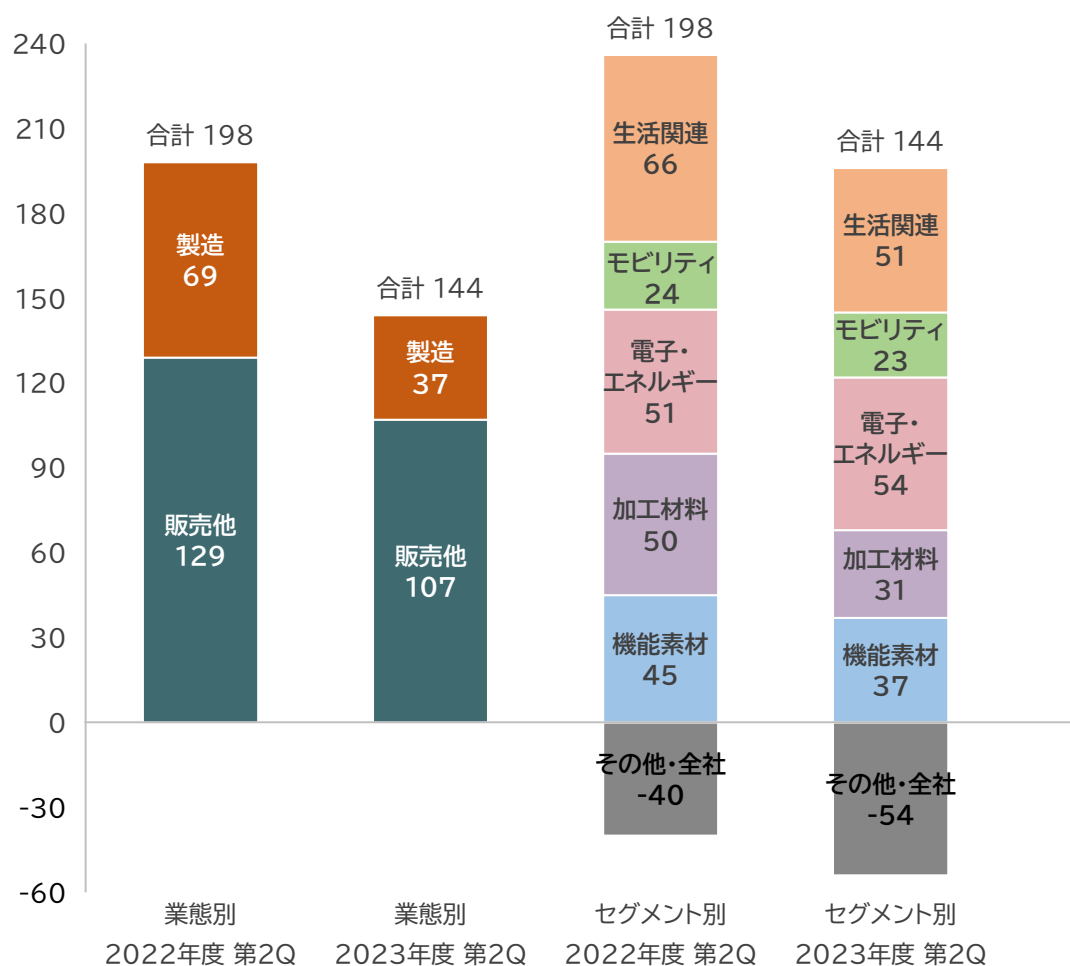




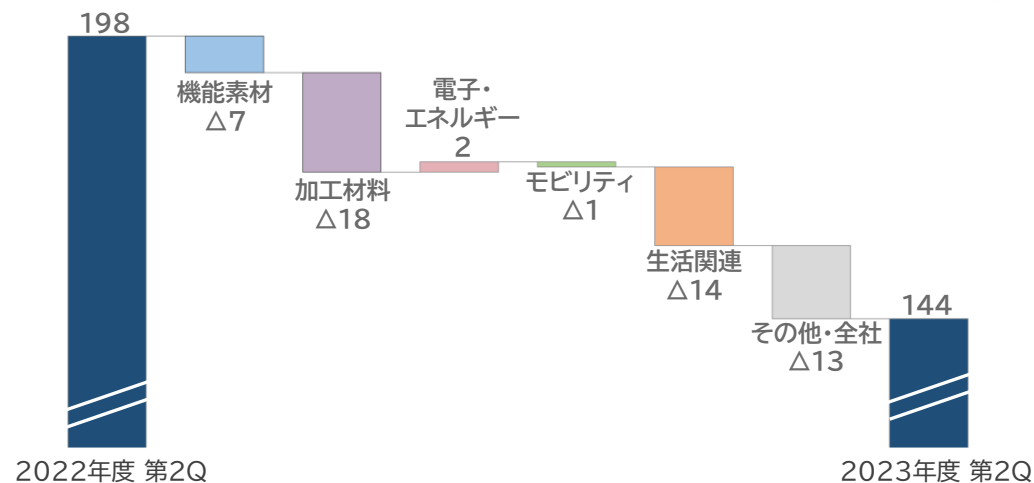
# 業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 機能素材、加工材料は売上総利益の減少により、減益
- ▶ 電子・エネルギーは売上総利益の増加により、増益
- ▶ 生活関連は売上総利益は増加したが、主にPrinovaグループの人件費等の一般管理費の増加、ユタ新工場の利益貢献の遅れ等の影響により、減益
- ▶ DX関連投資等、将来の持続的成長のための投資は継続して実施

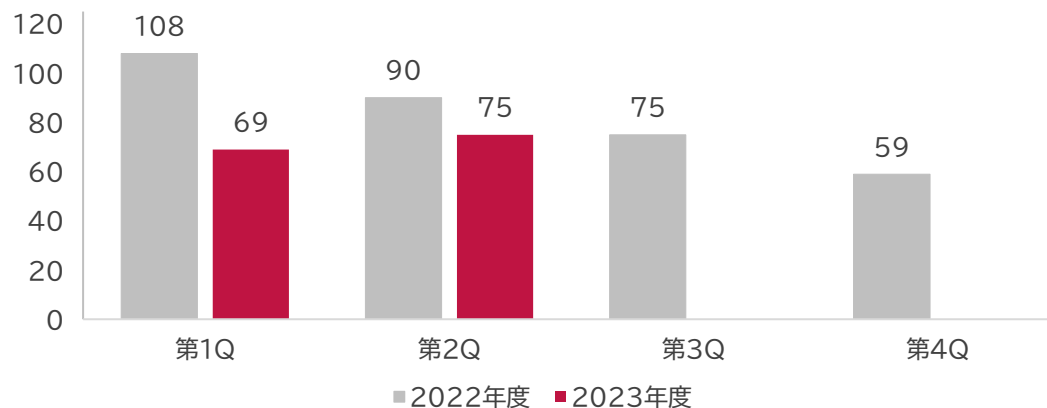
## 業態・セグメント別 営業利益 (億円)



## セグメント別 営業利益 増減 (億円)



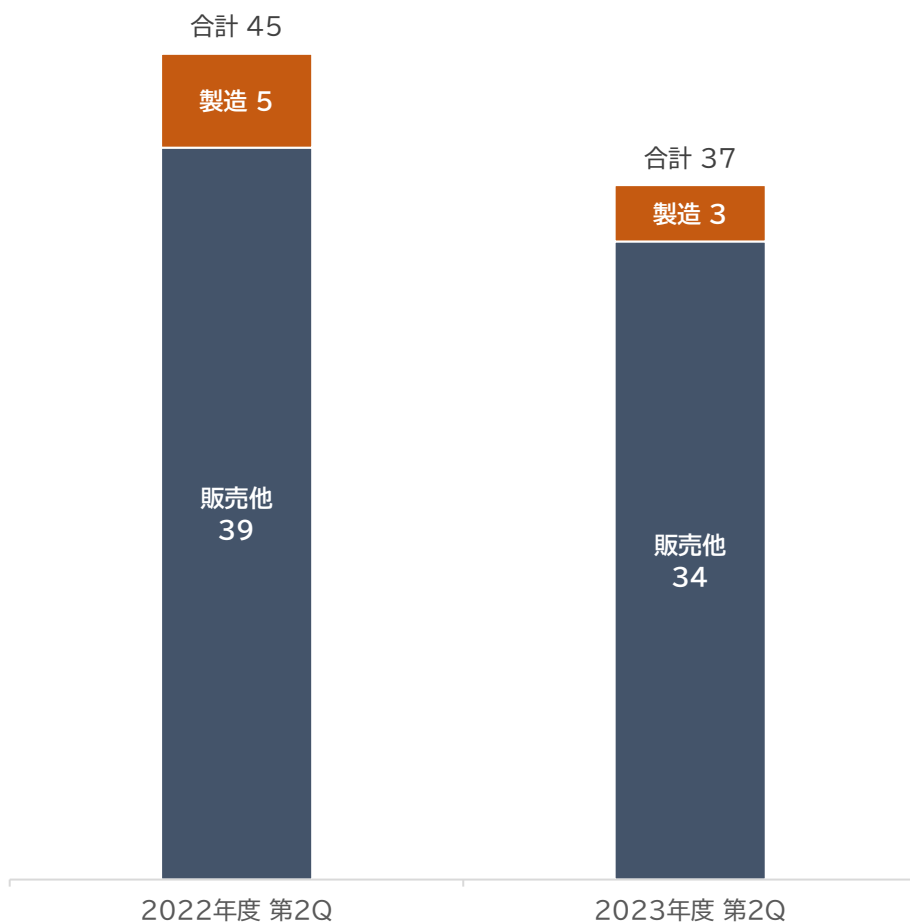
## 営業利益 四半期推移 (億円)



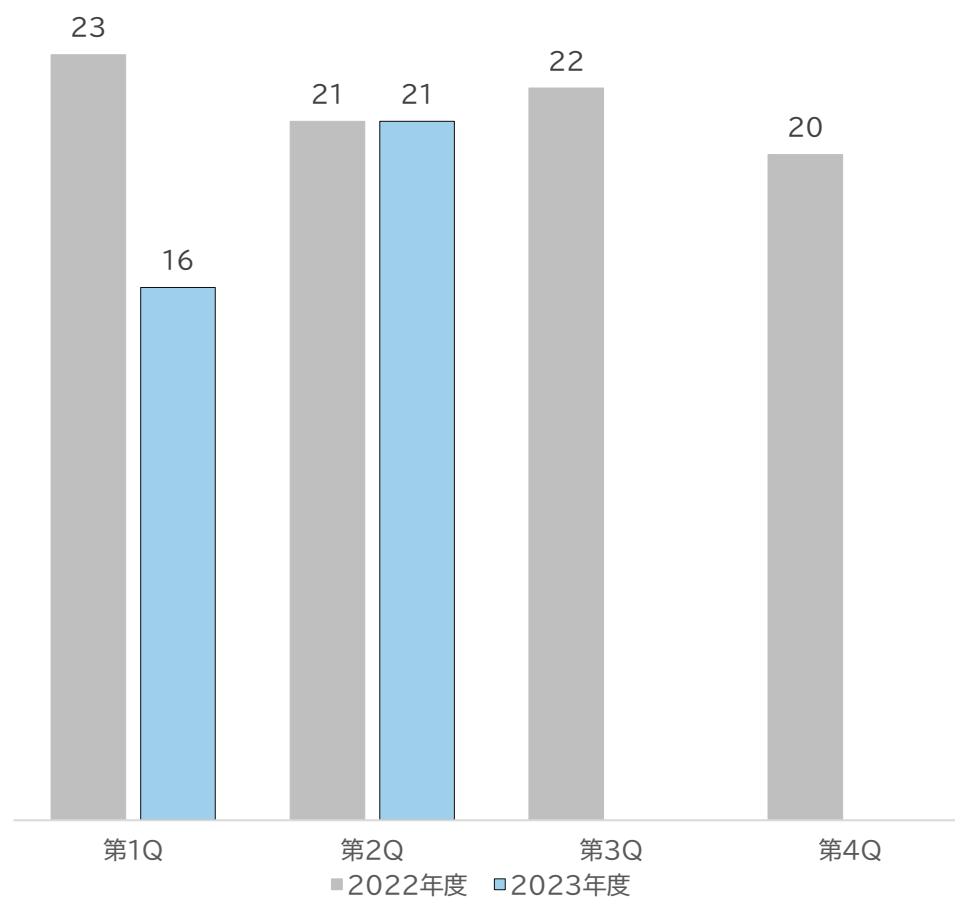
# セグメント 営業利益概況：機能素材

- ▶ 自動車業界等向けの塗料原料の販売が減少
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けの原料販売、加工油剤・樹脂関連の原料販売が減少
- ▶ 顧客の在庫調整の影響もあり全体として低調に推移した結果、前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益（億円）



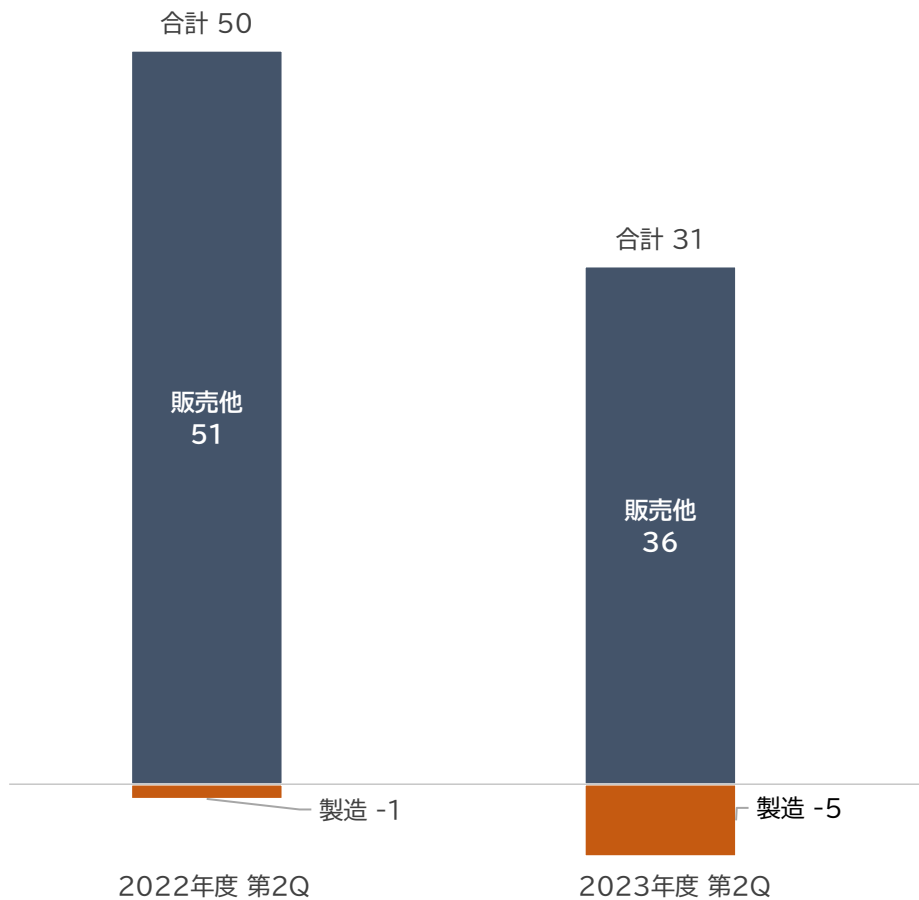
## 営業利益 四半期推移（億円）



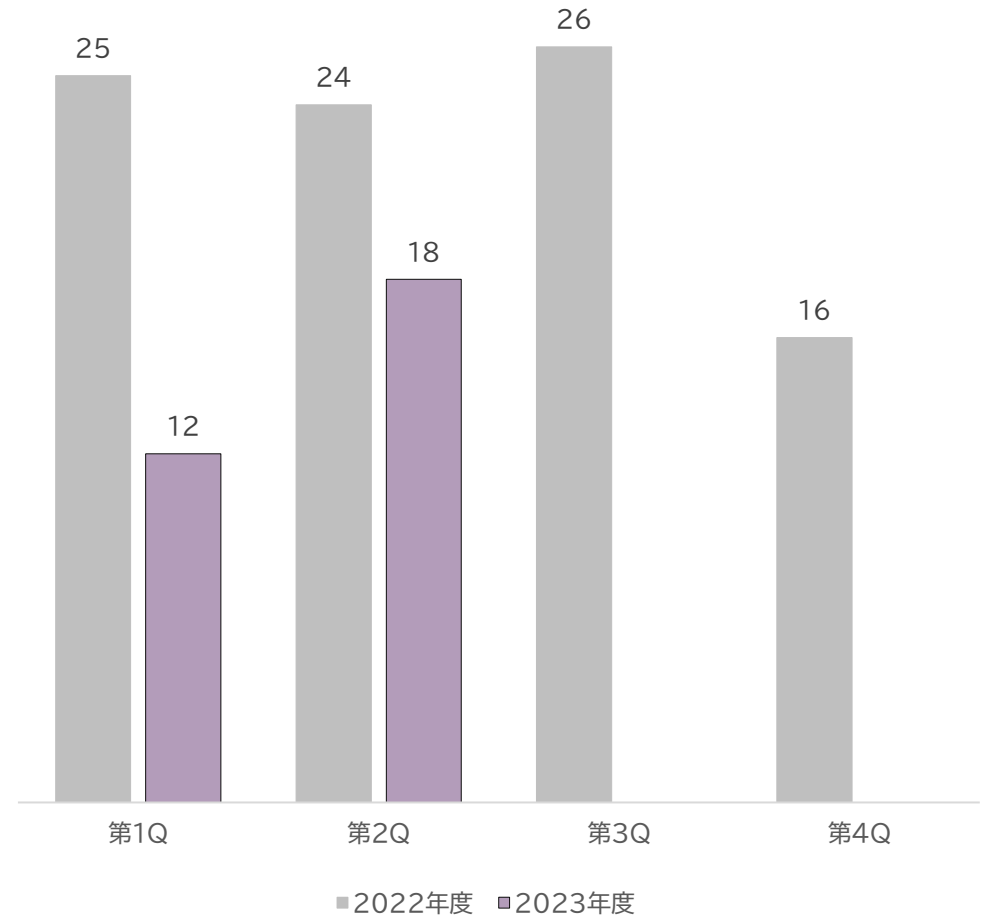
# セグメント 営業利益概況:加工材料

- ▶ OA・ゲーム機器業界等向けの樹脂販売は需要の減少および顧客の在庫調整の影響等により、減少
- ▶ 情報印刷関連材料は製造業の収益性が低下し、販売も減少
- ▶ 樹脂販売の減少、製造業の収益性の低下により商社業、製造業ともに低調に推移し、前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益 (億円)



## 営業利益 四半期推移 (億円)



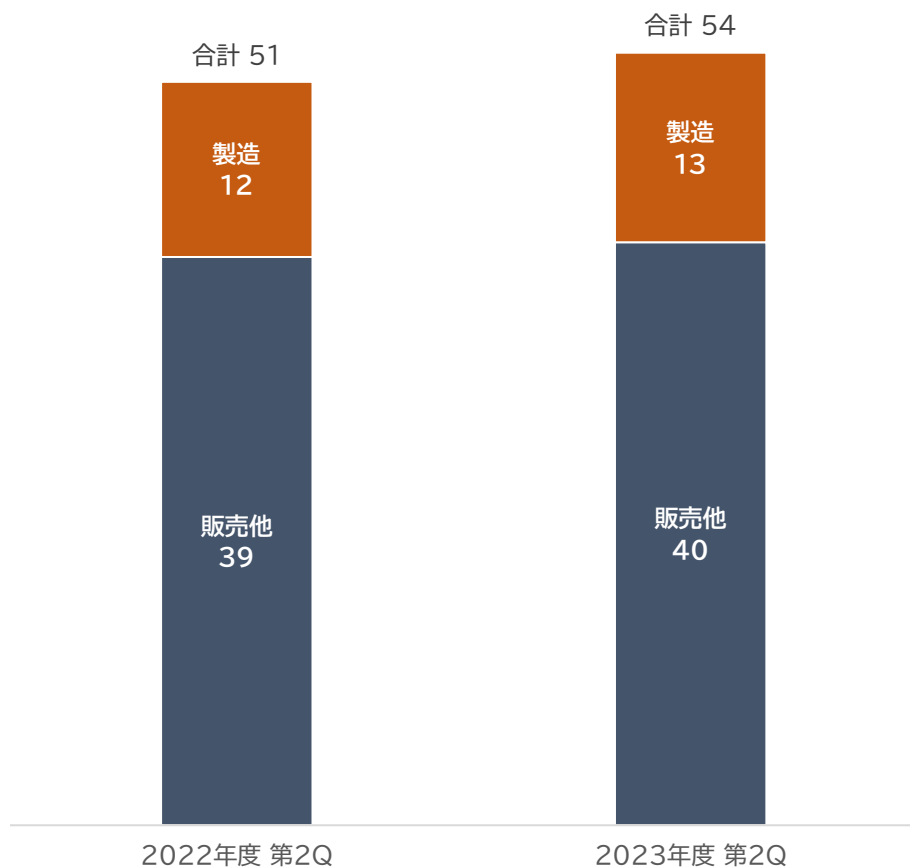
■ 2022年度 ■ 2023年度



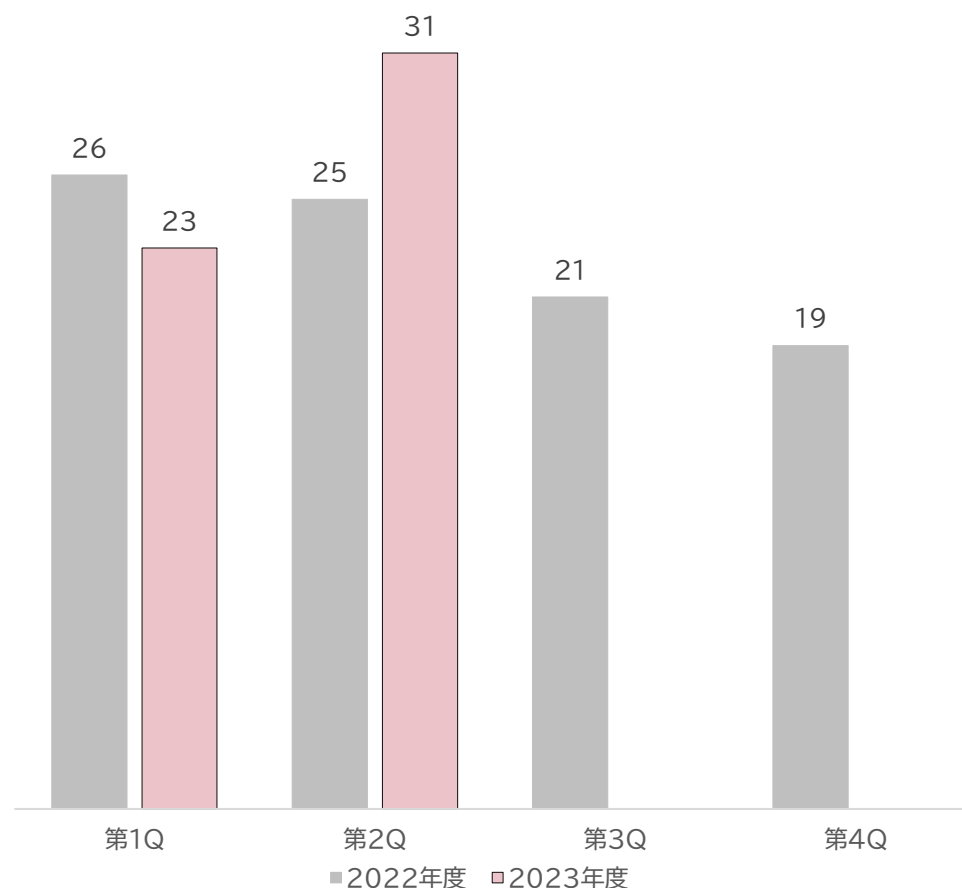
# セグメント 営業利益概況：電子・エネルギー

- ▶ 半導体業界向け材料販売は半導体市況の悪化はあるものの、商材の拡充等もあり増加
- ▶ 変性エポキシ樹脂関連は、主にサーバー用の半導体向け、モバイル機器向けの販売が増加
- ▶ 全体としては、変性エポキシ樹脂関連の販売好調により、前年同期と比べて増益

## 業態別 営業利益 (億円)



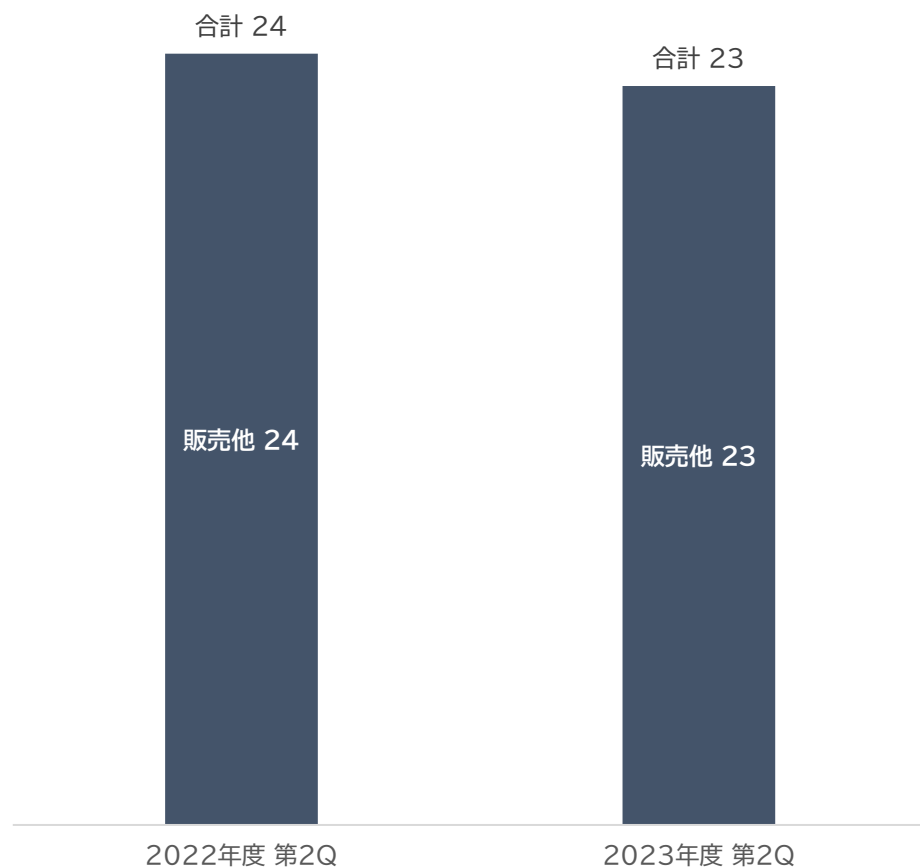
## 営業利益 四半期推移 (億円)



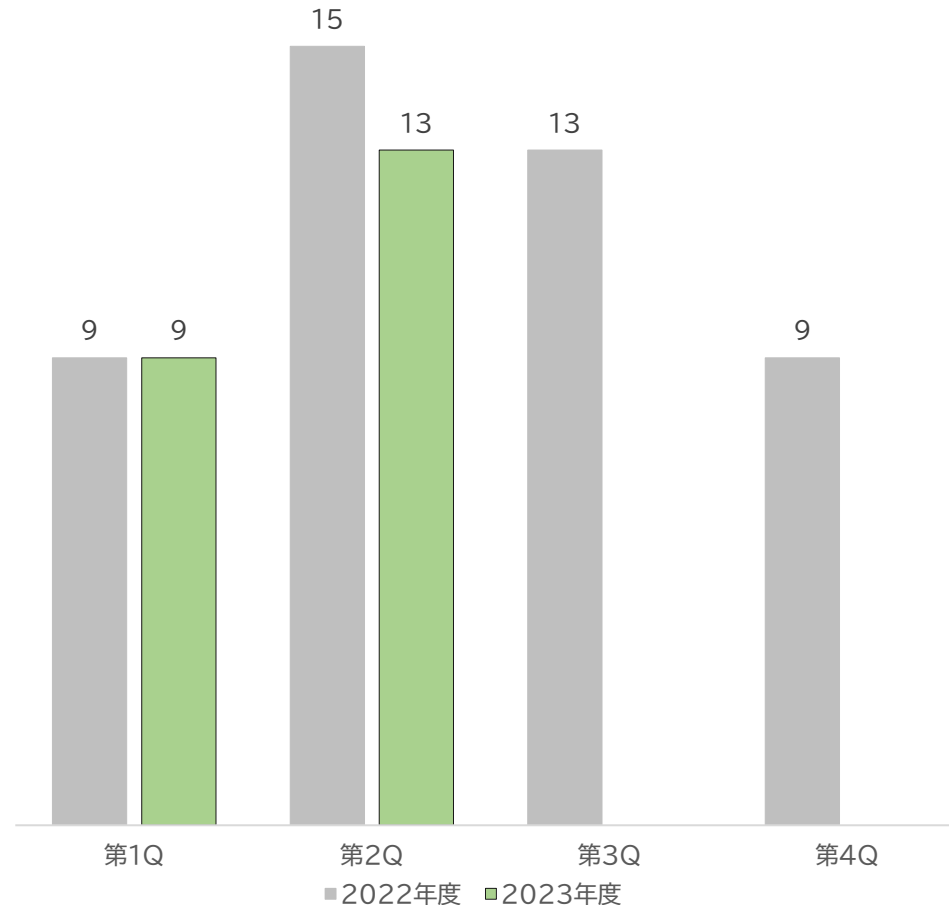
# セグメント 営業利益概況：モビリティ

- ▶ 樹脂の販売は、自動車生産台数の増加や既存顧客向けへのシェア拡大等により増加
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 活動量の増加等に伴う一般管理費の増加により、前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益 (億円)



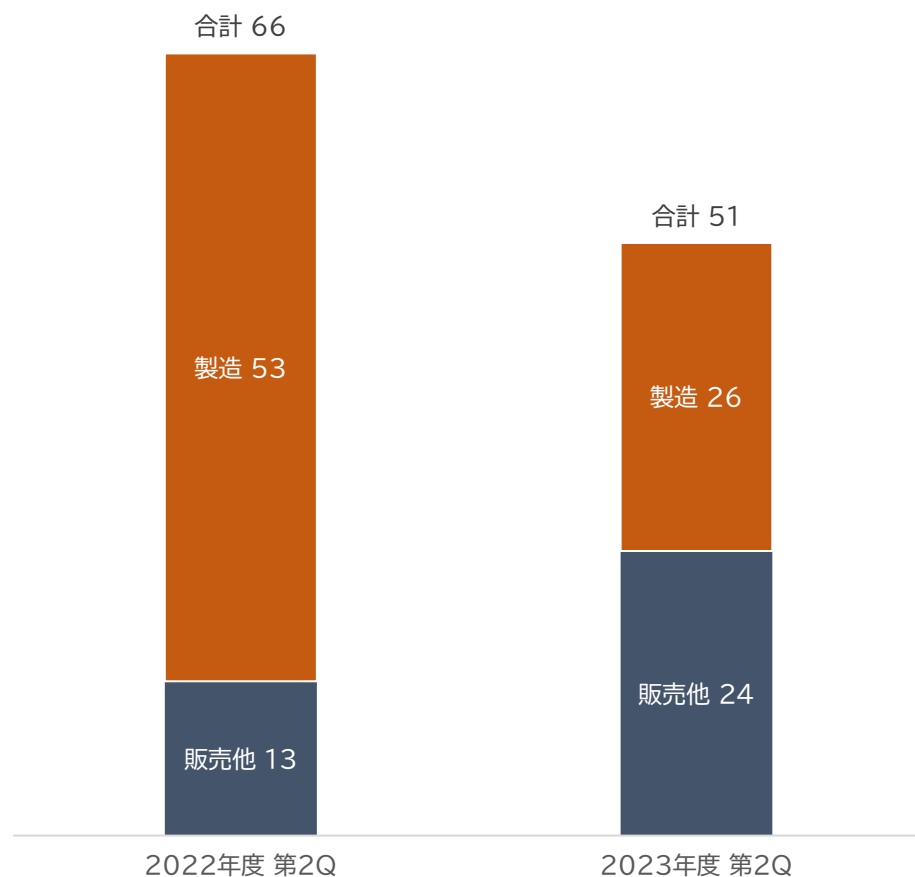
## 営業利益 四半期推移 (億円)



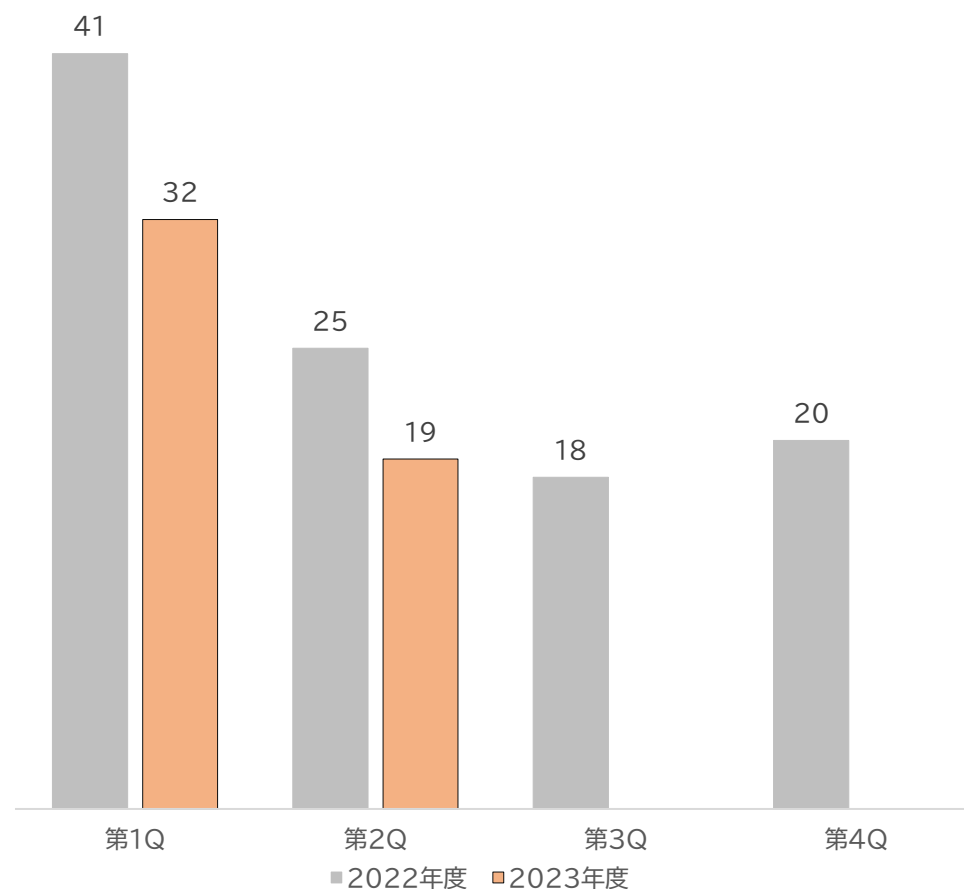
# セグメント 営業利益概況：生活関連

- ▶ Prinovaグループは円安による影響に加え、ユタ新工場の稼働もあり全体として販売が増加したが、市況下落により食品素材販売の収益性が低下
- ▶ 林原は主に香粧品素材の販売が増加
- ▶ 林原は好調に推移したが、Prinovaグループの収益性低下、ユタ新工場の利益貢献の遅れにより、全体として前年同期と比べて減益

## 業態別 営業利益（億円）



## 営業利益 四半期推移（億円）



# 主要製造子会社の業績概要

- ▶ ナガセケムテックス：生化学品事業の移管があったものの、収益性の高い変性エポキシ樹脂関連の販売が増加したことにより、増益
- ▶ 林原：値上げの浸透や需要の回復を受けた香粧品素材の販売好調により、増益
- ▶ Prinovaグループ：製造加工ビジネスにおける販売の増加はあったものの、市況下落による食品素材販売の収益性の低下や人件費等の一般管理費の増加、ユタ新工場の利益貢献の遅れ等の影響により、減益

(単位: 億円)

		2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増減額	前年同期比	通期見通し (修正前)	進捗率
ナガセケムテックス	売上高	135	122	△12	90%	252	49%
	売上総利益	38	37	△1	97%	71	52%
	営業利益	11	13	1	112%	20	66%
林原	売上高	138	170	31	122%	367	46%
	売上総利益	53	62	9	118%	131	48%
	営業利益	20	26	6	133%	50	53%
	のれん等償却費	15	15	—	100%	30	50%
	償却費負担後営業利益	4	11	6	239%	19	58%
Prinova グループ	売上高	950	968	18	102%	2,035	48%
	売上総利益	166	164	△2	98%	367	45%
	営業利益	57	26	△30	47%	84	32%
	のれん等償却費	11	12	1	110%	24	50%
	償却費負担後営業利益	46	14	△31	32%	59	24%

# 連結貸借対照表

▶ 流動資産：縮減を進めてきた棚卸資産が減少

▶ 純資産：配当金の支払い・自己株式取得もあったが、四半期純利益の計上、有価証券評価差額、為替換算調整勘定の増加等もあり増加

(単位:億円)

	2023年3月末	2023年9月末	増減額	主な増減
流動資産	5,301	5,388	87	
（現金及び預金）	408	408	△0	
（売掛債権）	3,021	3,245	224	
（棚卸資産）	1,697	1,542	△155	
固定資産	2,325	2,458	132	
（投資有価証券）	697	752	55	
資産の部合計	7,626	7,847	220	
流動負債	2,862	2,906	44	短期借入金・CP△121
（買掛債務）	1,404	1,567	163	
固定負債	980	1,018	37	リース債務+35、長期借入金△12
負債の部合計	3,843	3,924	81	
株主資本	3,090	3,066	△24	自己株式△66
その他の包括利益累計額	586	785	199	為替換算調整勘定+154、有価証券評価差額+38
非支配株主持分	107	70	△36	
純資産の部合計	3,783	3,922	138	
運転資本	3,313	3,220	△93	
自己資本比率	48.2%	49.1%	0.9ppt	
NET D/ELシオ	0.38	0.34	△0.04	

# 連結キャッシュ・フロー計算書

- ▶ 営業CF: 運転資本の減少等により、営業キャッシュ・フローは382億円の純収入
- ▶ 投資CF: 投資有価証券売却による収入等があったが、主に有形・無形固定資産の取得による支出等により64億円の純支出
- ▶ 財務CF: 短期借入金・CPの減少や配当金の支払い、自己株式取得等により366億円の純支出

(単位: 億円)

	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△179	382
投資活動によるキャッシュ・フロー	△59	△64
フリーキャッシュ・フロー	△239	318
財務活動によるキャッシュ・フロー	115	△366
換算差額	47	50
現金及び現金同等物の増減額	△76	2
有形・無形資産償却費	71	79
固定資産投資	△83	△82
運転資本の増減	△295	233



# 2023年度 通期業績見通し(変更あり)

- ▶ 自動車関連、半導体関連、ライフ&ヘルスケア関連等、堅調に推移している事業はあるものの、以下の状況を踏まえ通期業績見通しを下方修正
- ▶ 樹脂販売は世界的なインフレ影響による電子・電気製品の需要減少を受けて販売が減少し、市況下落により収益性も低下
- ▶ フード関連事業はPrinovaグループのユタ新工場の利益貢献が遅れていることに加え、市況下落により食品素材販売の収益性も低下
- ▶ 当初は下期から見込んでいたスマートフォンの需要の本格回復に遅れが見られ、関連する材料、素材販売による利益が当初想定を下回る可能性

(単位:億円)

	2022年度 実績	2023年度 見通し修正前	2023年度 見通し修正後	増減額	増減率
売上高	9,128	9,580	9,000	△580	△6%
売上総利益	1,554	1,710	1,630	△80	△5%
<利益率>	17.0%	17.8%	18.1%	0.3ppt	—
販売費及び一般管理費	1,220	1,365	1,330	△35	△3%
営業利益	333	345	300	△45	△13%
経常利益	325	326	290	△36	△11%
親会社株主に帰属する当期純利益	236	240	225	△15	△6%
US\$レート (期中平均)	@ 135.5	@ 135.0	@ 143.0	@ 8.0 円安	
RMBレート (期中平均)	@ 19.7	@ 20.0	@ 20.0	—	

# 2023年度 セグメント別業績見通し(変更あり)

- ▶ 機能素材は加工材料からの事業移管により売上高は増加するが、収益性が悪化している情報印刷関連事業の影響により営業利益は下方修正
- ▶ 電子・エネルギーは売上高は全体として減少を見込むが、高収益品の販売増加により売上総利益の減少は小さく、営業利益を上方修正
- ▶ 生活関連は林原が好調もPrinovaグループのユタ新工場の利益貢献の遅れによる影響が大きく、営業利益を下方修正
- ▶ その他・全社は費用対効果を見直し経費を削減

※ 2023年度見通し修正前は事業セグメントの組替前、2022年度実績および2023年度修正見通しは事業セグメント組替後の数値

(単位:億円)

		2022年度 実績	2023年度 見通し修正前	2023年度 見通し修正後	増減額	増減率
機能素材	売上高	1,561	1,150	1,540	390	34%
	売上総利益	298	229	275	46	20%
	営業利益	104	89	83	△6	△7%
加工材料	売上高	2,209	2,700	1,970	△730	△27%
	売上総利益	242	343	236	△107	△31%
	営業利益	76	110	69	△41	△37%
電子・エネルギー	売上高	1,369	1,500	1,390	△110	△7%
	売上総利益	307	338	335	△3	△1%
	営業利益	92	106	111	5	5%
モビリティ	売上高	1,255	1,356	1,299	△57	△4%
	売上総利益	144	156	149	△7	△5%
	営業利益	47	51	48	△3	△6%
生活関連	売上高	2,731	2,873	2,800	△73	△3%
	売上総利益	559	643	634	△9	△1%
	営業利益	105	113	108	△5	△4%
その他・全社	売上高	0	1	1	—	—
	売上総利益	1	1	1	—	—
	営業利益	-94	-124	-119	5	4%
連結合計	売上高	9,128	9,580	9,000	△580	△6%
	売上総利益	1,554	1,710	1,630	△80	△5%
	営業利益	333	345	300	△45	△13%

※ 2023年10月1日より事業セグメントの区分方法を変更しており、前期実績については、当該変更を反映した組替後の数値を記載しております。

# 主要製造子会社の業績見通し(変更あり)

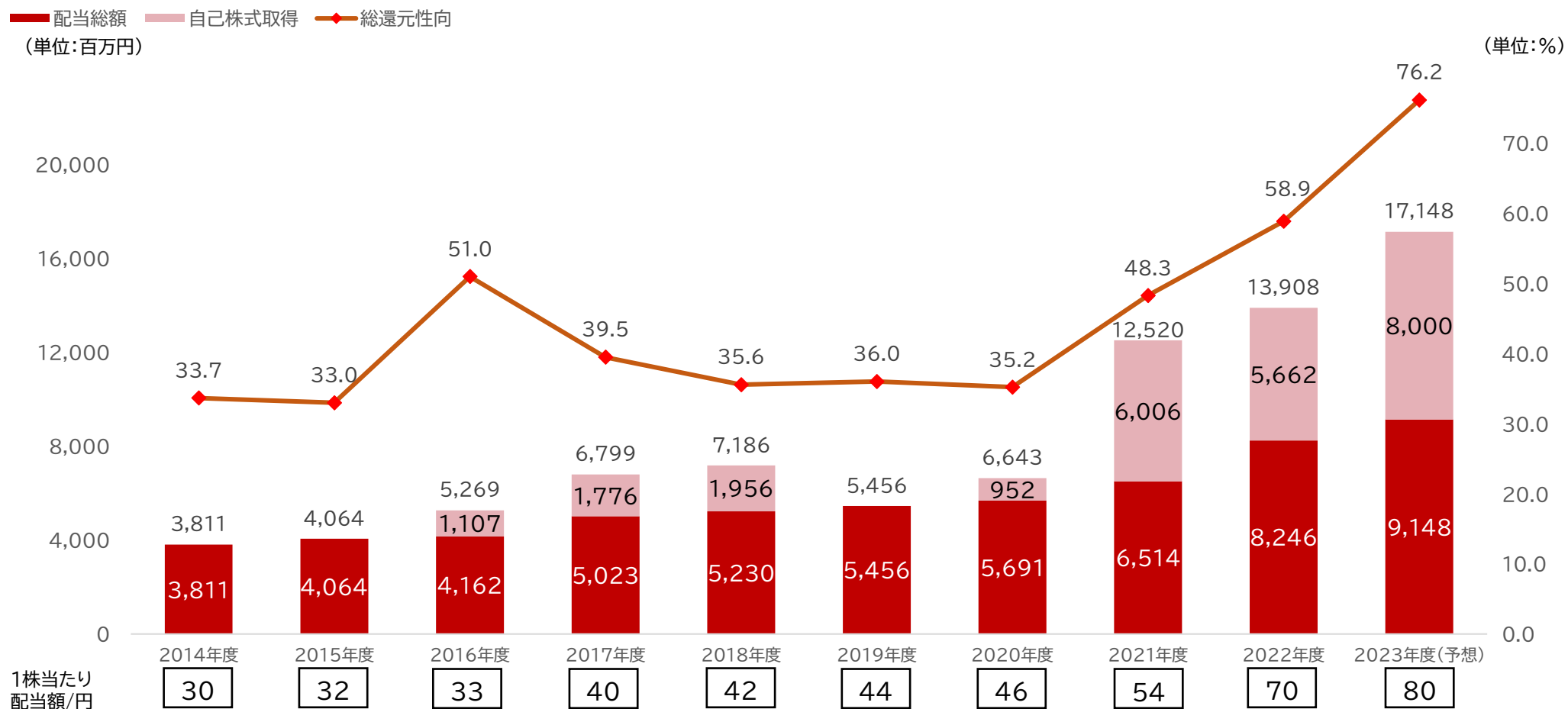
- ▶ ナガセケムテックス : 売上高は全体として減少を見込むが、収益性の高い製品の販売好調により、営業利益を上方修正
- ▶ 林原 : 値上げの浸透や需要の回復を受けた主に香粧品素材の販売好調等により、営業利益を上方修正
- ▶ Prinovaグループ : ユタ新工場の利益貢献の遅れ、市況下落を受けた食品素材販売の収益性低下による影響が大きく、営業利益を下方修正

(単位:億円)

		2022年度 実績	2023年度 見通し修正前	2023年度 見通し修正後	増減額	増減率
ナガセケムテックス	売上高	253	252	247	△4	△2%
	売上総利益	68	71	77	5	8%
	営業利益	18	20	24	4	23%
林原	売上高	281	367	347	△19	△5%
	売上総利益	103	131	128	△2	△2%
	営業利益	37	50	52	1	3%
	のれん等償却費	30	30	30	—	—
	償却費負担後営業利益	7	19	21	1	8%
Prinova グループ	売上高	1,927	2,035	1,943	△91	△5%
	売上総利益	312	367	355	△12	△3%
	営業利益	80	84	62	△22	△27%
	のれん等償却費	24	24	25	0	4%
	償却費負担後営業利益	56	59	36	△23	△39%

# 株主還元状況

- ▶ 2023年度の1株当たり配当金は中間40円、期末40円の年間80円を予定(14期連続増配見通し)
- ▶ 2023年5月に決議した80億円の自己株式取得は予定通り進捗し、9月末時点での取得累計額は66億円(取得期間:2023年5月~12月予定)
- ▶ 増配および自己株式取得による還元拡充もあり、2023年度の総還元性向は76%となる見込み



※ 2023年度の期末配当金は、2024年6月開催予定の第109回定時株主総会に附議予定です。

# **NAGASE** | **Delivering next.**

■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

当プレゼンテーション資料には、2023年11月1日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。